"音頭"の裏面に"愛唱歌"

作詞は鈴木比呂志さん

さきに選定された甘楽町音頭（黒沢常五郎さんの作品）は、作曲家松井八郎さんに作曲をお願いしておりましたがまもなくコロンビアレコードで歌手の都はるみさんにより吹き込みが行なわれることになりました。

また、レコードの裏面には、「甘楽町愛唱歌」を吹き込むことになり、作詞を鈴木比呂志さん（富岡市）にお願いし、作曲は「甘楽町音頭」の松井八郎さん、歌手は三鷹淳さんにより、七月二十四日に吹き込みを完了しました。また「甘楽町音頭」の振り付けは、高商教員の金井光代さんにお願いしました。吹き込みを完了した「甘楽町愛唱歌」の歌詞は、次のとおりです。

甘楽町愛唱歌

鈴木比呂志 作詞
松井八郎 作曲

(一)
雲が 流れる 果てない空に
憂 やさしい 種 含
おさな なじみの ふるさとの山
呼べば 心に こだまする
ああ……栄えゆく
展けゆく……甘楽町

(二)
谷のせせらぎ 岩間をめぐり
歌う雄川の 水のいろ
いつもなつかし ふるさとの川
若いのぞみと 夢のせて
ああ……栄えゆく
展けゆく……甘楽町

(三)
汗にかがやく ひとみをあげて
仰ぐ 白雲 雲の 峯
みのりゆたかな ふるさとの土
母の手のように あたたかい
ああ……栄えゆく
展けゆく……甘楽町

(四)
月が あかるい 小幡の城跡
ひかり さしこむ 笹の森
伝統 ゆかしい ふるさとの町
明日のしあわせ 呼ぶように
ああ……栄えゆく
展けゆく……甘楽町

全国高校総体

当町から八名が出場

全国高等学校総合体育大会は、七月三十一日から群馬県をはじめ各地で実施されますが、この大会に当町から八名の選手が参加します。七月二十三日には、役場で出場選手を囲んで激励会が開かれました。激励会には、町長や議長も出席し、「しっかりがんばってください」と選手を激励しました。

出場選手は、次のとおりです。

鈴木喜八君（経谷・高商二年・陸上）斉藤徳太郎君（金井・甘農三年・レスリング）、吉田進一君（白倉・甘農二年・レスリング）松井美子さん（小幡・富東三年・庭球）、松井みさ江さん（善・富東三年・庭球）森田利子さん（善慶寺・富東二年・弓道）、織井戸秀子さん（小幡・富東二年・弓道）、神戸純子さん（小幡・富東三年・弓道）

選手（前列）を囲んでの記念撮影

小柏茂 課長補佐 企画文書係長 急死

役場の職員で総務課企画文書係長、小柏茂さん（38才・福島・写真右）が七月二十六日、検査のため入院中の富岡厚生病院で、往診によるショックで急死しました。

小柏さんは、昭和二十五年から十九年間、役場職員として勤務され、この間、広報事務をはじめ、事務改善や新庁舎建設などの事務を担当し、才腕をふるいました。

特に「広報活動」では、その優秀な実績を認められ、国や県からも表彰されておりました。

町でも、その功績に報いるため同日付けで課長補佐に昇任しました。

田村トモエさん

県の広報協賛員に

ことしの県の広報協賛員に、大字秋畑、田村トモエさん（40才・写真上）が委嘱されました。

これは、県政広報活動のひとつとして、広報のしん透状況を調査し、あわせて県民の声を集約し、これを県政に反映させるために県に設けられている制度で、県下の各市町村に一人すつおかれ期間は一年です。

食中毒にご用心

食中毒の季節です。たべものはなるべく加熱し、なま物はできるだけさけるようにしましょう。また手洗いを励行し、調理場は、整理、整頓、清潔保持につとめ、食器類、包丁、まな板、ふきんなどの洗浄および消毒を徹底しましょう。そして、食中毒がおきないようじゅうぶん注意しましょう。